

氏名(本籍)	石岡丈昇(兵庫県)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	博乙第2500号		
学位授与年月日	平成22年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	貧困世界における身体文化形成をめぐる社会学的研究 - マニラのローカルボクサーとその生活体の事例から -		
主査	筑波大学教授	教育学博士	松村和則
副査	筑波大学教授	博士(体育科学)	中込四郎
副査	筑波大学准教授	教育学博士	清水諭
副査	筑波大学教授	博士(文学)	好井裕明
副査	一橋大学教授		町村敬志

論文の内容の要旨

(目的)

スポーツのローカル化の実相を明らかにすることによって、都市下層民の地域固有な社会・文化形成の特質を解明する。

(対象と方法)

フィリピン・マニラ首都圏に暮らすローカルボクサーの日常生活分析を、フィールドワークを中心とした定性的研究方法によって行った。

(結果)

フィリピンのボクサーの中で、「10ラウンダー」となる者は約5人に1人であり、2年以内に引退する者が6割にも上る。これは単に肉体的な厳しさではなく、独特な生活倫理を形成しつつ彼らの「全体的空間」(=生活空間)を形成することが下支えとなって可能となる。都市下層に生きる人々は、失業の恐れ(未来の剥奪)を常に抱えており、ボクサーはその中でも「選ばれた」者達であった。その「特殊な」事例の中に、マニラ・スクオッターで生きる「作法」すなわちボクシングジムが全体的給付関係を維持しつつ生活の保障体系を作り出す論理を抽出している。著者は、その根底にボクサーの「尽きなく在ろうとする意志」を共在的に見いだしている。

審査の結果の要旨

「受肉化」「負い目」といった概念化に関しては、再考する余地があるとの意見があった。しかし、「スポーツの論理」が立ち上がる現場にしたたかに寄り添い、生活倫理が現前化する「実証」研究をものにしたことを審査者全員が高く評価した。スポーツ社会学、労働社会学、地域研究といった研究領域を超えて展開する著者の可能性を確認した。

よって、著者は博士(学術)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。